

(様式1)

### 自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>地域のと結びつき関わり合いを考え、その人らしく生活できるように、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	<p>今後も理念に振り返り、見直していく。</p>
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>会議などで話しあい、意識の共有を図っている。</p>	
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>玄関の見やすい場所に理念を掲げている。又、ホーム便りや運営推進会議等を通し、理解してもらえようとしているが十分とは言えない。</p>	<p>運営推進会議などを通し、地域に理解してもらえようとしているが、引き続き理念の浸透を図っていく。</p>
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	<p>隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。</p>	<p>民生委員・町の相談員受け入れを行い、面会・見学・ボランティアなど自由に立ち寄って頂けるようにしている。夏祭り・近隣への散歩・ショッピングを通し、地域との交流の機会を設けている。又、法人内の支援センターを通して相談出来るよう窓口も設けている。</p>	<p>地域の認知症普及活動への参加にける為、地元の人と交流する機会を増やしていく。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>			
5	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>		
6	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>		
7	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>		
8	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>		<p>権利擁護・地域後見制度の必要性は分かるものの、十分な説明はできない為、必要と思える人に支援できる段階ではない。全職員が勉強会を重ね必要性・活用性を身につけていく。</p>
9	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
10	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
11	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
12	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>		
13	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
14	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		
15	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>16 職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>利用者への馴染みの関係を考え、ダメージの少ないよう職員の異動時は、よく検討し必要最小限にしている。</p>		
<p><b>5. 人材の育成と支援</b></p>			
<p>17 職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>内部にて勉強会通し質の向上に努めている。又段階に応じ研修会に参加し、参加後報告会などを通して、研修内容を共有している。</p>		
<p>18 同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>併設施設である為、他部署と交流を図ったり情報交換し、サービスの向上に努めている。又研修等で知り合った同業者や町村の同業者との交流・行き来などもある。グループホーム協会に加入している為、研修の場を通じ情報交換している。</p>		
<p>19 職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための良好な工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>相談しやすい雰囲気や努め出来るだけ、ストレス軽減できるよう配慮している。又親睦会を通じストレスを発散出来る機会を設けている。</p>		
<p>20 向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>職員の意見を取り入れ、各自が向上心を持って働けるよう努めている。職員の努力・勤務状況をきちんと把握している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
21	<p>初期に築く本人、家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>相談があった場合は、本人・家族から困っていること、不安などゆっくり話す機会をつくり、利用者が安心して生活できるようにしている。</p>	
22	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>相談時は、本人・家族・関係機関と連携を図り他のサービスを含めながら、本人と家族が今必要としているサービスを見極め、利用者が一番必要なサービスを提供出来るよう対応に努めている。家族・本人の気持ちを一番に優先している。</p>	
23	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>本人・家族の意向を第一に、自然と場の雰囲気に馴染めるよう家族と相談して行っている。又本人についての情報収集を行うと共に事前に体験利用や見学・家族の宿泊も可能にしている。</p>	
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>			
24	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>食器拭き、掃除、調理、レクリエーション等を一緒に行い、教えて頂いたり、ゆっくりと話す時間・くつろぎの時間を増やし、共に喜びを分かち合っている。利用者中心になるように努めている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25 本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族とは連絡を密にし、職員・家族と共に支え合い利用者が安心して生活できるように支援している。又家族の協力を得ながら、問題解決に向けて対応している。		
26 本人と家族のよりよい関係に向けた支援  これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人・家族の関係を理解し、ホームに入居されていても今まで通り、家族と利用者が良い関係を築いていけるよう、面会時などには職員も会話に入りながら対応している。又通院の付き添いをお願いしたり、行事等と一緒に過ごして頂けるよう対応している。		
27 馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いつでも面会に来て頂けるよう配慮している。又馴染みの場所での買い物や近隣への散歩などを支援している。		馴染みの友人に遊びに来て頂けるよう声を掛け、お互いの関係を継続させていく。
28 利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の関係を把握しトラブルのないよう対応している。又職員が会話の中に入り孤立する事のないよう、利用者同士の関わり合いを深めている。		
29 関係を断ち切らない取り組み  サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービス利用が終了しても利用者・家族の相談に応じている。又サービス終了後の状況も電話を頂いたり、状況を聞いたりと対応している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
<b>1.一人ひとりの把握</b>			
30	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>本人・家族の希望・意向を取り入れ介護計画を作成し、統一したケアを行っている。困難な場合でも本人の気持ちになり、利用者本位に検討している。センター方式を活用し、本人の思い・希望を感じとっている。</p>	
31	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>入居時、ケアマネージャー・家族・本人から聞き取りし、状況の把握に努めている。又、日常生活の会話の中からも、生活歴や馴染みの暮らしの話題を取り入れ情報を得ている。</p>	
32	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>個々の過ごし方・有する力の現状を把握している。又ミーティングを通し、全職員が把握するように努めている。</p>	
<b>2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>			
33	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>センター方式を活用し、本人・家族の思いを感じ取ったり、本人・家族の希望を第一に考え、話し合い職員間でアイデアを出しあい作成している。又作成された介護計画書は、手紙と共に送付し要望も聞き入れて、次回の介護計画書に反映させている。</p>	
34	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>基本的に、短期目標3ヶ月・長期目標6ヶ月と定め、評価見直ししている。見直し以前に対応出来ない変化が生じた場合は、家族に状況を説明し、再度要望を確認しながら、現状に即した計画書を作成している。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
35 個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日中・夜間の様子を個別記録に記入している。又、業務日誌には、気づきや特変事項を記入し、朝・夕の申し送りにて情報を共有している。月1回のミーティングにて話し合い、介護計画の見直し実践に結びつけている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>			
36 事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	居宅介護支援事業所において家族・入居者が相談されたり、必要に応じて移送サービスを活用することもできる為、要望に応じ柔軟な対応をしている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>			
37 地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	月1回町の相談員が来園され、利用者の相談を受けている。相談内容は職員に情報を提供していただき、お互いに情報を共有しながら支援する。消防署の協力により避難訓練(年二回)や救命救急講習を行っている。		
38 他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人の意向・必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーに相談する事はあるが、現在は他のサービスを希望する利用者がいない為、必要に応じて支援していく。		
39 地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	本人の必要性に応じて、地域包括支援センターと協力して対応に取り組んでいる。		



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
40 かかりつけ医の受診支援  本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当ホームの協力医療機関と連携を図りながら支援している。又入居前のかかりつけ医に受診したり、その都度本人・家族の要望を大切に適切な医療が受けられるよう支援している。		
41 認知症の専門医等の受診支援  専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	近くに認知症専門医がないが、相談によってくれる主治医もいる。医師によっては相談しにくい場合もあり、適切なアドバイスが頂けない時もある。		近くに認知症専門医がない為、認知症に詳しく、診断や治療・相談ができる専門医がいればよいと思う。
42 看護職との協働  利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職員が配置されており、昼夜相談出来る環境にある。又協力医療機関の看護師も相談によってくれる。医療連携体制により訪問看護サービスとの契約しており週1回来園され、健康管理の支援をしている。		
43 早期退院に向けた医療機関との協働  利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	利用者入院時はできるだけ面会へ行き、病院との情報交換を行っている。又家族・病院関係者と相談しながら、早期退院できるよう努めている。		
44 重度化や終末期に向けた方針の共有  重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	契約時には十分に説明を行うと共に、早い段階で本人・家族・医師と話し合いを行っている。		
45 重度化や終末期に向けたチームでの支援  重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	終末期のあり方について医師・家族と相談して支援している。今後の変化に備えて検討しているも不安な面もある。		医療行為が必要となった場合の対応。医師・看護婦との関わりなど再度「できること・できないこと」の見極め検討が必要である。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
46 住み替え時の協働によるダメージの防止  本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	入居者に不安のないよう十分に相談し対応している。		
<b>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>			
(1) 一人ひとりの尊重			
47 プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者のプライバシーを損ねないよう、敬意を表した声掛け・自尊心を傷つけないような対応を職員間で統一している。個人情報保護法の理解にも努めている。		
48 利用者の希望の表出や自己決定の支援  本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	日常の中から本人の思いを自然と聞き出せるよう会話をしたり、個々に合わせた説明を行っている。又自己決定できない利用者でも、本人の好みや表情・行動などをよく観察し、納得しながら生活できるよう支援している。		
49 日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ひとり一人のペースを大切に、できるだけ希望に添った対応をしているが、すぐに要望に添う事ができない時もある。		すぐに要望に添うことが出来ない場合には、本人のストレスとならないように、後日対応できるように本人にゆっくりと説明し、希望を叶えられるよう対応していく。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
50 身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	外出に合わせたおしゃれをしたり、その人らしいおしゃれや身だしなみをしている。理美容に関しては、毎月一回地域の顔馴染みの理美容店が来て下さるので、現在は他店の理美容希望者はいない。		理美容に関して、希望があれば本人の望む店に行けるよう努めている。現在は希望者がいないが気分転換や地域との交流を図る為にも、希望に応じ施設外の理美容店を利用し、おしゃれを提供できるように支援していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
51 食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者 と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の食べたい物を献立に取り入れたり一緒にできる利用者は、茶碗拭き・野菜切りを行っている。又献立をホワイトボードに書いて頂き、食事の楽しみを見 いだしている。		
52 本人の嗜好の支援  本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、 好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的 に楽しめるよう支援している	一日の小遣いを決めて本人の好みのジュースやおや つを、併設のサービスのストアに買いに行かれ楽し んでいる利用者もおられる。又好みのおやつを購 入したり個々の状況に合わせて対応している。糖尿 病の方もいるので、量を調節し健康面を配慮し支 援している。		
53 気持ちよい排泄の支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひと りの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持 ちよく排泄できるよう支援している	出来るだけオムツの使用を避け個々の排泄パター ンを把握し、トイレ誘導を行っている。又リハビリ パンツ～失禁パンツへと移行できるよう努めている。		
54 入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわず に、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、 入浴を楽しめるように支援している	基本的に希望があればいつでも入浴できる体制で あるが、入浴中の事故の危険性を考え目が離せ ない為、すぐに要望に対応できない場合もある。		利用者の状況や希望に合わせて、入浴できるよう 対応していく。
55 安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に 応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れる よう支援している	個々の一日のリズムを把握し日中は軽作業や適 度な運動をし、安眠に努めている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
56 役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるよう に、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、 楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ひとり一人の生活歴・楽しみ事を把握し、個々 に張り合い・笑顔を引き出せるよう対応してい る。又、通院等外に出る機会には外食・買 い物等を楽しみ気晴らしの支援をしてい る。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57 お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員側でお金を管理しているが、個人で所持している方や一日の金額を決めて使っている方もいる。個々に合わせた金銭管理を行っている。		
58 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は散歩をしたり、庭先でおやつを食べたり歌を歌ったりしている。又ドライブや買い物もしている。		外出の要望にはすぐに答えられない事もあるが、時間をずらしても対応できるよう支援している。
59 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	受診時外出した際など、個別の要望により、買い物・外食する機会を提供している。家族の状況に合わせ外出・外泊の支援をしている。		
60 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者が電話をかけたり、手紙を書いたり要望があれば代筆したり支援している。		
61 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間に規定はなく、いつでも訪問・面会できる環境である。又家族・友人などの宿泊も可能である。		
(4)安心と安全を支える支援			
62 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての具体的内容を職員間で周知し、家族や全職員が協力しあい、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
63 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかける事への弊害は理解しているも、安全面を考え家族に説明しやむお得ず鍵をかけている。要望時は開放し、できるだけ、日中は鍵をかけずに生活できるよう対応している。		要望に応じて開放しているも、鍵をかけなくても生活できる環境を提供していく。
64 利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜共に利用者の様子を把握し常に所在の確認をしている。		
65 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	個々の状態に応じて危険を防ぐ取り組みをしている。危険な物に関しては利用者の手の届かない場所に保管したり、保管場所・保管方法を明確に取り決め、事故・危険のないよう対応している。		
66 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハット・事故報告書・転倒アセスメントコアシートなどで報告しその都度対応策を話し合っている。又勉強会も実施している。		
67 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	救急救命講習を受け、救急対応が速やかに行えるよう取り組んでいる。又緊急時対応マニュアルもホールに提示している。		救命救急講習は受けているが急変時慌てず対応出来る為に、個人でもイメージトレーニングするなどし対応に備えていく。
68 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練を昼夜を想定し年二回行っている。すぐに職員の連絡を得られるよう連絡網を用意している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
69	<p>リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている</p>		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
70	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>		
71	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>		
72	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>		
73	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>		
74	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75 感染症予防  感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	入居者・職員のうち手洗いを実施しており、手指消毒をする等、感染予防に努めている。予防接種も職員・利用者全員行っている。		
76 食材の管理  食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎日買い物へ行き新鮮で安全な食材を扱っている。又食中毒の予防の為、まな板・台所回りの消毒も行っている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b> (1)居心地のよい環境づくり			
77 安心して出入りできる玄関まわりの工夫  利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	建物周辺に植栽を行い一般家庭の玄関及び、庭の雰囲気作りを心掛け安心して出入りができるよう工夫している。		
78 居心地のよい共用空間づくり  共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホール・廊下には季節に合わせた装飾・利用者で作成した作品、行事の写真等を提示している。又共通して好まれる歌・時代劇などのビデオを流し、居心地のよい場所提供している。		
79 共用空間における居場所づくり  共用空間の中には、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	所々に椅子・ソファを配置し、自由に過ごせるよう場所の確保をしている。和室にもTV・雑誌を用意し、思い思いに過ごせるよう工夫している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>80</p> <p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>本人や家族と相談し、希望に添って居心地のよい場所を提供している。家族の写真・好きな本・植物など個々に居心地よく過ごせる場所となっている。</p>		
<p>81</p> <p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>温度計・湿度計を確認しながら、換気を行っている。</p>		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
<p>82</p> <p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>利用者の安全を配慮し、転倒につながる障害物を回避したり、自立した生活を送れるよう工夫している。</p>		
<p>83</p> <p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>残存機能を活かして生活できるよう対応をしている。混乱していたり、迷っている時は表情・行動から察知し、自立した生活を送れるよう工夫している。</p>		
<p>84</p> <p>建物の活用</p> <p>建物を利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>庭に花・木を植えたり、玄関先にベンチを置きくつろげるようにしている。</p>		

(  部分は外部評価との共通評価項目です )



. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
85	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
86	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
87	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
88	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
89	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
90	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
93	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
94	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
95	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
96	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
97	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・調理・作品作り・軽作業など利用者から教えて頂く場面作りを大切にし、利用者主体のケアを統一している。
- ・施設内は、季節感を味わえるよう装飾品を工夫し、入居者と一緒に作成した作品などを飾り、喜びを分かち合っている。
- ・利用者の側に寄り添い、利用者の笑顔を引き出せるようコミュニケーションを大切にしている。